

目 次

ライチョウパネル展 in ぎふ「ニホンライチョウの危機—神の鳥を失わないために」の開催報告 楠田 哲士…………… 1	新規雑誌購入リスト…………… 5
寄贈図書一覧（平成26年7月～12月）…………… 5	図書館が変わりました…………… 6
	図書館で使えるデータベース紹介…………… 7
	My Libraryを活用しよう…………… 8

ライチョウパネル展 in ぎふ「ニホンライチョウの危機—神の鳥を失わないために」の開催報告

楠田 哲士



2014年11月22日～2015年1月8日まで、岐阜大学図書館において、ライチョウパネル展 in ぎふ「ニホンライチョウの危機—神の鳥を失わないために」を開催しました。主催は、岐阜大学応用生物科学部動物繁殖学研究室、そして岐阜大学図書館と応用生物科学部附属野生動物管理学研究センターとの共催です。



冬羽のニホンライチョウ（2014年2月、榑池高原）

1. ニホンライチョウという鳥、そしてその危機について

ニホンライチョウ (*Lagopus muta japonica*) は、ライチョウという種の中の1亜種で、日本は世界の最南限の生息地にあたります。本州中部の高山帯で繁殖している日本の山岳生態系を象徴する生物です。国の特別天然記念物で、岐阜県・長野県・富山県では県のシンボル「県鳥」に指定されています。岐阜県内の生息地としては、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山が一部含まれており、このうち岐阜県と長野県にまたがる乗鞍岳には、比較的大きな集団があります。

しかし、ニホンライチョウ全体の個体数は、1984年以前は約3000羽と推定されていましたが、最近の調査では2000羽以下にまで減少していると推定されています。減少要因として、キツネやカラスなどの生息域拡大による捕食の増加、山岳環境の汚染、開発による生息地の減少、ニホンジカの侵入による高山植生の破壊などが挙げられています。

このような状況から、2012年、環境省のレッドリストにおいて絶滅危惧ⅠB類にランクが引き上げられ、「ライチョウ保護増殖事業計画」も発表されました。日本の奥山に棲む、神の鳥とも呼ばれるニホンライチョウ、そしてその聖域であった高山の生息地に危機が迫っています。神の鳥ニホンライチョウを失わないように、生息地では、調査研究や保護活動が行われています。そして、本来の生息地以外の場所では、日本動物園水族館協会と加盟動物園が中心となり、今後の飼育下でのニホンライチョウの保全にむけた取り組みとして、北欧の別亜種スバルライチョウ (*L. m. hyperboreus*) を使って先行的に飼育技術の確立や試験研究が行われています。2014年4月に、環境省が発表した「第一期ライチョウ保護増殖事業実施計画」では、5年以内にニホンライチョウの飼育下繁殖を開始し、飼育技術・体制を確立することが示されています。ニホンライチョウの保全の取り組みが、新たな局面を迎えようとしています。しかし、このことは、先述の通り、いよいよニホンライチョウが危機的で、今手を打たなければ取り返しのつかないことになりかねない、ということの意味します。

2. ライチョウパネル展の開催趣旨と開催経緯

パネル展では、写真や標本を展示し、またライチョウに関わる調査研究、生息地や動物園での保全活動などについて紹介し、これらの展示を通して、ニホンライチョウという鳥や、その危機について広く知っていただきたいという願いがありました。そして、保全の現状や保護増殖事業の今後の展開など、ニホンライチョウを取り巻く最新情報を共有したいと考えました。

私が、ライチョウの研究に関わるようになったのは、2011年のことで、上野動物園との共同研究が始まりです。岐阜大学としては、獣医学分野のいくつかの研究室によって、ニホンライチョウの研究が、かつて先進的に行われていました。そういったライチョウ研究のベースがあったことも、企画のきっかけでした。そこでまず、関係教員として、獣医微生物

物学研究室の福士秀人教授（図書館長）に、企画の相談を持ちかけました。そうしたところ、図書館が昨年7月にリニューアルオープンしたばかりであったため、図書館長のお立場から、図書館を会場にできないかという提案をいただいたのです。より広く地元の鳥ニホンライチョウについて知ってほしいという私の願いや、福士先生のライチョウ研究者としての思いも一致し、図書館を使って盛大に開催することが決まりました（もちろん、その他様々な調整に苦労しましたが…）。2階の玄関ホールから、新棟のラーニング・コモンズを含む2階フロアを広く使って、展示を作ることになりました。

3. ライチョウパネル展の展示内容

まず、玄関ホールには、ニホンライチョウやその生息地の写真パネルを約50枚展示しました。次に、ニホンライチョウの生態や保全に関するパネルを14枚（主に、環境省と大町山岳博物館から）、ニホンライチョウに関わる調査研究のパネルを11枚（遺伝学、獣医学、生態学等の学内外の大学研究室から）、ニホンライチョウの生息域外保全に向けた技術確立に関する活動紹介パネルを11枚（日本動物園水族館協会から）、計36枚を展示しました。

その他、大画面モニタでライチョウのドキュメンタリー映像を上映、ニホンライチョウの剥製と骨格



展示したニホンライチョウの剥製と骨格標本
(野生動物管理学研究センター所蔵)

標本、鳴き声、スパーバルライチョウの卵、高山植物（ハイマツ、ガンコウラン、コケモモなど）、高山植物の花の液浸標本（ハクサンシャクナゲ、チングルマなど）、図書館からはライチョウや鳥類、高山植物等に関する所蔵書籍の展示（残念ながら図書館にはライチョウ関係の書籍がほとんどなく、パネル展を機に何冊かを寄贈しました）、環境省の保護増殖事業の関連文書などの展示を行いました。さらに、記念品として、オリジナルのポストカード9種類と缶バッジ2種類を会場で配布しました。

学外からの図書館への来館者記録を見ると、このパネル展を目的に足を運んでくださった方は、岐阜県岐阜市と美濃市、愛知県の方が多く、その他に岐阜県内各地から数名ずつ、そして驚くべきことに、東京・埼玉・山梨・福井・石川・長野・三重・滋賀・大阪・兵庫・沖縄の各都府県から1～2名ずつの来館がありました。



玄関ホールでのパネルと写真の展示



大画面でのニホンライチョウ映像の上映



ラーニング・commonsでのパネルや標本などの展示
(これらは展示のごく一部です。)

4. ライチョウセミナーの開催とパネル展の評価

パネル展の連動企画として、野生動物管理学研究センターセミナーを「ニホンライチョウの現状と保護」のテーマで、2014年12月16日に開催しました。このセミナーは、応用生物科学部生産環境科学課程2年生の授業「動物園学」の特別講義の一環とし、その授業時間割枠を使用して、一般公開で行いました。

参加者数は141名で、その内訳は動物園学の受講者58名の他、学生・教職員をはじめ、県内外（岐阜県、愛知県、三重県、福井県、山梨県）からの高校や中学校の生徒・教員、行政関係者、野鳥の会、一般市民など83名もの参加がありました。

講演では、ライチョウの生態研究の第一人者で、現地の最前線で活動されている、信州大学名誉教授の中村浩志先生から「ニホンライチョウの現状と保護」についてお話いただきました。野外のライチョウの特殊な生態、人を恐れないというライチョウの生態が伝える日本文化、現地での生息数の減少理由やその状況、現地での保護活動などについて紹介されました。次に、野生動物管理学研究センターの角田裕志先生より話題提供「大型野生動物の高山帯への侵入：岐阜県の現状と今後の課題」として、ライチョウの減少要因の1つともなっているニホンジカやイノシシの問題について、最新情報が紹介されました。ライチョウの一大生息地でもある乗鞍岳にしるびよるニホンジカの分布拡大状況が示されました。中村先生から南アルプスのライチョウ生息地の悲惨な状況が紹介され、「ニホンジカの高山帯への拡大は火事のようなもの。初期消火が大事。燃え広がっ



ライチョウセミナーの会場は満席でした。

てからではどうしようもない」という言葉が印象的でした。そろそろ初期消火しなければならない状況を示す岐阜県の実際のデータが角田先生から示され、危機を感じさせられました。対策が急がれます。

セミナー当日に、参加者に対して、パネル展やセミナーに関するアンケートに協力していただきました。集計結果からは、パネル展やセミナーが非常に好評であったことが伺えました。そして、ライチョウが危機にあることをよく知っていた人は47%、なんとなく知っていた人は45%、それに対し、国の保護増殖事業が始まったことを知らなかった人は52%となりました。参加者の半数以上は、ライチョウに興味があって集まった人だと思いますが、にも関わらず、このような数字であったことから、こういった普及啓発を兼ねたイベント、情報発信が極めて重要であることを再認識しました。今回のパネル展は、岐阜新聞、中日新聞、毎日新聞に取り上げられ、インターネット上にも掲載されました。パネル展やセミナーに来ていただいた方だけでなく、多くの人に、ライチョウについて知る、あるいは考えるきっかけを発信できたのではないかと期待しています。

さいごに

今回の開催にあたり、日本動物園水族館協会、環境省中部地方環境事務所、飛騨乗鞍観光協会／乗鞍観光協議会、ライチョウ会議から後援を頂きました。

また展示物等に関して、信州大学 生態学研究室、大町山岳博物館、恩賜上野動物園、多摩動物公園、富山市ファミリーパーク、長野市茶臼山動物園、いしかわ動物園、横浜市繁殖センター、よこはま動物園ズーラシア、国立科学博物館 動物研究部、日本大学 野生動物学研究室、日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室、鳥取大学 獣医衛生学教育研究分野、岐阜大学応用生物科学部 獣医微生物学研究室・獣医病理学研究室・野生動物医学研究室・多様性保全学研究室・森林動物管理学研究室、椋山女学園大学 柘窪研究室、板橋区立エコポリスセンター、環境省自然環境局野生生物課・長野自然環境事務所、岐阜大学生協から、惜しめない協力を頂きました。さらには文永堂出版株式会社と農山漁村文化協会から協賛を頂きました。これらの多くの団体や企業等に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。そして、会場設営等を頑張ってくれた研究室の学生に感謝します。

今回の展示物の一部は、今後、富山市や長野県大町市でのライチョウに関する企画展にも活用される予定です。

ライチョウパネル展の特設ページ URL

http://www1.gifu-u.ac.jp/~lar/contents/lar_event/lar_event.html

(くすだ さとし：応用生物科学部 准教授、日本動物園水族館協会生物多様性委員会 外部委員)

ライチョウ関係寄贈図書一覧

・二万年の奇跡を生きた鳥ライチョウ
中村浩志著

【本館3階 488.4||Nak】

・ライチョウ：生活と飼育への挑戦
大町山岳博物館編

【本館3階 488.4||Oma】

・雷鳥が語りかけるもの
中村浩志著

【本館3階 488.4||Nak】

寄贈図書一覧（平成26年7月～12月）

平成26年7月～12月に図書館にご寄贈いただいた図書の中で、本学教職員が著作・編集・刊行等に関係した図書を掲載します。ご寄贈いただき、ありがとうございました。引き続き、ご寄贈をお願いいたします。

●富樫幸一（地域科学部）

・日本の経済地理学50年

【本館3階 332.9 || Nih】

・日本経済と地域構造

【本館3階 332.1 || Nih】

～内容紹介～

経済地理学を専門としてきた39人の研究者が、それぞれの研究の出発点や、先生や同僚とのエピソード等を語っています。資源開発や地域政策など、地理学以外のフィールドワークの分野にも参考になります。

～内容紹介～

グローバル化の中での地域経済や産業集積の変貌から、商店街、農業、まちづくりまで、理論的、実証的に論じた最新の論文集です。編者の山川先生は、3.11以降の福島再生の中心となって取り組まれています。

●楠田哲士（応用生物科学部）

・ぎふの淡水生物をまもる：岐阜の淡水生物保全BOOK 増補改訂版／楠田哲士編

【本館3階 481.75 || Gih】

～内容紹介～

岐阜を中心に、淡水生物の保全や研究に携わる方々に、その危機や保全活動の最前線を紹介していただいたフリーの普及啓発本です。初版から新たな項を追加し、1.5倍になりました。PDF版でも公開（<http://blogs.yahoo.co.jp/zooreplab/56416870.html>）。

●益川浩一（総合情報メディアセンター）

・学習プログラムの運営と展開：愛知県安城市における「生涯学習ボランティア養成講座」の取組／益川浩一著

・現代社会教育・生涯学習の諸相／益川浩一著

・戦後岐阜社会教育史研究：一九四五～一九七〇年における岐阜県内地域・自治体の社会教育行政と社会教育施設／益川浩一著

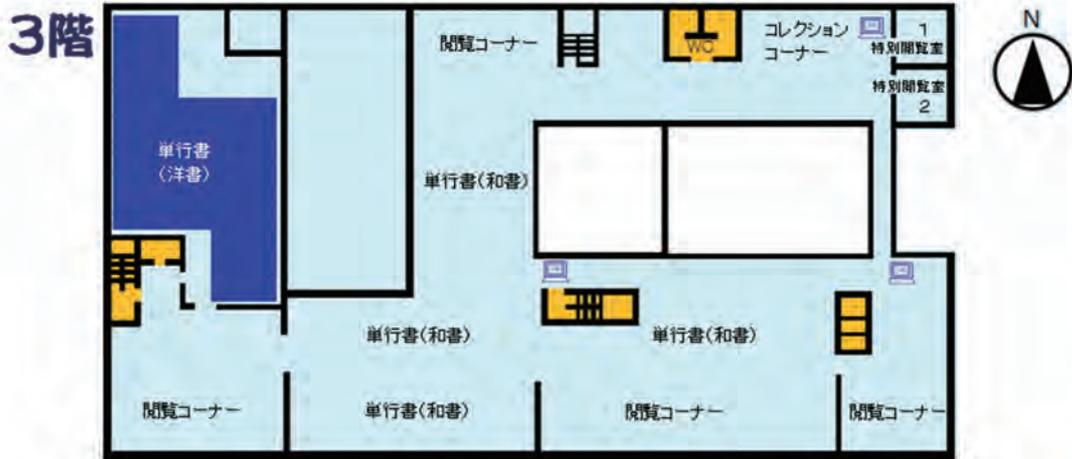
【本館3階 379 || Mas】

※内容紹介は寄贈者による。

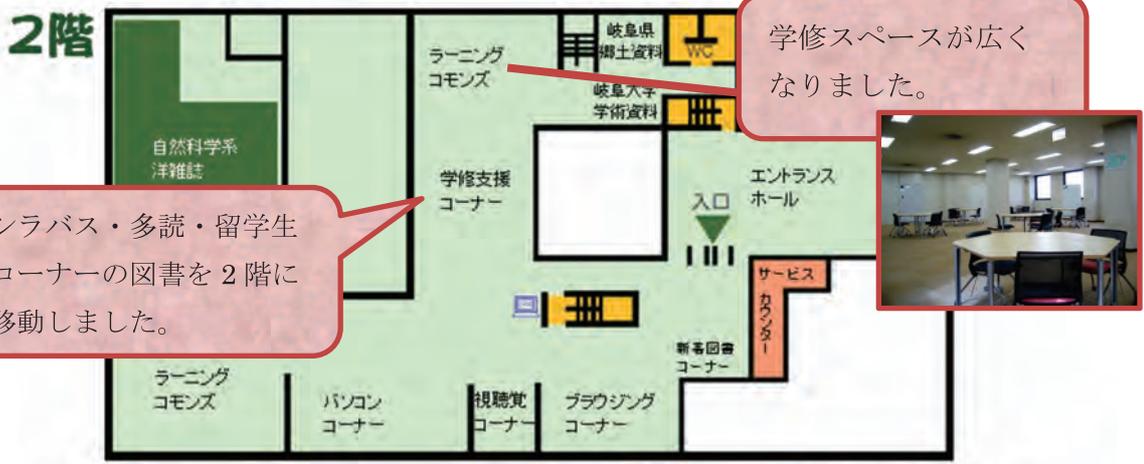
新規雑誌購入リスト

	雑誌名	配架場所
2014年	Transportation Science	電子ジャーナル
	Nature digest	教理科教育（生物）
2015年	ガバナンス：21世紀の地方自治を創る総合情報誌	地域構造講座
	コーチング・クリニック	教保健体育
	理科教室	図本館自然科学系
	The Japan times ST	教英語教育
	Cephalalgia	電子ジャーナル

図書館が明るく、きれいに、便利になりました



3階は落ち着いて閲覧・学修が可能なサイレントフロア



2階はアカデミックディスカッションが可能なラーニング・commonsフロア



新入生
向け

図書館で使えるデータベース紹介

蔵書検索、論文検索、記事検索……特定の情報を得たいときには、専用のデータベースを利用すると目的の情報にたどり着きやすくなります。図書館ホームページからは、様々なデータベースにアクセスできます。今回は、学部新入生向けにその一部をご紹介します。Google や Yahoo!などの検索エンジンも便利ですが、大学入学のこの機会に、学術情報を検索するためのデータベースも活用してください。

蔵書検索

■図書館蔵書目録データベース

蔵書検索のためのデータベースです。図書館で所蔵している図書・雑誌・視聴覚資料（図書・雑誌は電子媒体のものも含む）を検索することができます。オンラインで公開されていますので、Online Public Access Catalog、通称 OPAC（オパック、オーパック）と呼んでいます。図書館内の OPAC 用パソコン（6 ページの館内図の ）からでも、学外からでも利用できます。

■CiNii Books — 大学図書館の本をさがす

CiNii（サイニイ）Books は、日本の大学図書館の蔵書を一括検索できるデータベースです。

オンライン文献（論文・記事）検索（学内専用）

雑誌等に掲載された個々の論文や新聞記事を調べる場合は、OPAC ではなく、専用のデータベースを使います。

〈論文〉

■CiNii Articles — 日本の論文をさがす

CiNii(サイニイ)Articles は、日本の学協会誌・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索することができます。論文によっては本文の閲覧が可能です。

一般に公開されているデータベースですが、学内からアクセスすると、引用・被引用論文を参照できる、閲覧可能な論文が増えるなどの利点があります。

■医学中央雑誌 1977～

収録文献は、国内で発行されている医学・歯学・薬学・看護学・獣医学およびその関連分野から収集された約5,000の資料から採択されています。

〈新聞記事〉

■聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞） 1945～

1945年以降の朝日新聞、週刊誌「AERA」、「週刊朝日」の記事や「朝日現代用語事典 知恵蔵」を検索できる全文データベースです。政官財や学者及び研究者などの人物情報を収録した「朝日新聞人物データベース」も利用できます。

■中日新聞・東京新聞記事検索 1987～

中日新聞は1987年4月からの朝夕刊の最終版と、愛知、岐阜、三重、長野、滋賀、福井の中部地方各県版の主要記事および愛知、岐阜、三重県下の全地方版を提供しています。

東京新聞は、1997年4月からの朝夕刊の最終版を蓄積しています。

■日経テレコン21（日経新聞） 1975～

日経新聞・日経産業新聞・日経MJ・日経金融新聞の4誌および速報ニュース、Nikkei English News等の英文情報、企業情報・人物情報等のデータベースが利用できます。

今回紹介するデータベースは以上ですが、このほかにも英語論文検索用や博士論文検索用などがあります。学年が上がって必要になった時には、ぜひ使ってみてください。

MY Library を活用しよう



MY Library 「貸出・予約状況確認」の画面

MY Libraryは、岐阜大学図書館のWebサービスです。

- ① ILL サービス（学外から文献のコピーや図書を取り寄せるサービス）の依頼ができます。
- ② 今自分が借りている図書や予約している図書を確認することができます。また、返却期限内であれば、貸出延長（1回につき2週間）が3回までできます。
- ③ プレゼンルームやラーニング・ commons の使用予約ができます。